



さくらたより

令和5年度 学校だより
NO. 5
令和5年5月25日発行
山形市立桜田小学校

個人面談ありがとうございました(5月11日～16日)

お子さんの育ちを中心に据えて、ご家庭と学校とが関わり合いながらよりよい方向へ向かっていけるようにと、年度のなるべく早い時期に設定しています。お忙しい中、時間をつくっていただきありがとうございました。お子さんの家での様子や保護者の皆さまの思いをうかがうことができました。

今後もご家庭と連絡を取り合いながら学校運営を進めてまいります。ご協力をお願いいたします。

「朝の会」 3年生以上は **8:05** に始まっています

登校時刻が早まって1ヶ月半。ご家庭の協力を得て、子どもたちは早い時間帯の通学（7：45～8：00到着）に慣れつつあるようです。が、8：05に昇降口に駆け込み、少々あわてた状態になっている子も散見されます（約3%）。

3年生以上、朝の会は8：05に開始（個人の準備が整って、学級全体の時間が動き出す）です。間に合っていない子には、個別に声がけし、生活リズムの実態を聞き取り、徐々に「自分で」改善できるように励ましの言葉がけをしてまいります。ご了承ください。

8：05	1・2年生	3年生以上	8：05
	【準備時間】15分間 学習用具の準備 動植物の世話等	【朝の会】健康観察 1日の見通しや連絡等	
8：20	【朝の会】健康観察 1日の見通しや連絡等	【1時間目 授業】45分間	8：15
8：30	【1時間目 授業】30分間		
9：00			9：00

登下校は自分で歩く

(令和3年度学校だよりNO.20より抜粋)

～「子どもを鍛える（心も体も）」願いを込めて送り出して～

時刻通りの登校は、ご家庭の協力があればこそです。毎日ありがとうございます。

登校時「自分で歩く」ことは、“当たり前”となっています。「学区外通学だから車で」「足をけがしているから車で」、ということも例外としてありますが、桜田小は自分で歩く子が大部分です。知らず知らず、「自分のことは自分で。それが当たり前」というたくましさを身につけています。

「自分のことを自分でやれる人に」「歩くことは強い体づくりにつながる」など、言葉にならない大人の願いを込めて、学校に送り出してあげてください。

6年生の算数では、「データの処理」の学習をやります。(中略)自分たちの『通学時間』を調べ、データ処理してみました。

それによると、6年生が通学にかかる時間(片道)は、平均約14分、最長40分でした。**10分～20分が一番多い値**でした。全校児童を類推しても、そのくらいではないでしょうか。最長40分とは。かなりかかりますね。知らず知らず、心も体も鍛えられます。

PTA資源回収(5月13日)

コロナ禍で控えていたPTA活動。このたび4年ぶり、子どもたちが動く資源回収です。集積場所11カ所に分かれ、役員の皆さま、そして4年生以上の子どもたちが活躍しました。生活部長さんと学校の担当職員が中心になり、計画・運営。3年間のプランクがあるため勝手が分からず戸惑うこともありましたが、段取りがよかったおかげ、また、お互いに声を出し合い、何とか終わることができました。ご協力、ありがとうございました。



たてわり班清掃

17日から、たてわり班清掃が始まりました。先輩から後輩へ、やり方や仲間との関わり方等々が伝わっていきます。週に3回、異学年同士顔を合わせる掃除。子どもたちの関係が紡がれていきます。

“たてのつながり”に関わって、全校集会で次のような話をしました(要約)。

(前略)

桜田小学校では、多くの人と関わり、学び合うことをめあてに「たてわり班活動」を取り入れています。これは、平成5年度の記録に「たてわり」の記述があり(沿革誌)、それ以来絶やすことなくずっと続いている活動です。なくならないのは、それが、とても大事なことを含んでいる活動だからです。大事なことって何でしょう。これからの10ヶ月、特に6年生は、考え続けてみてください。

(中略)

こんなやりとりがもっと広がるといいなあという姿、紹介しますね。これは、今まで私が目にした、ここにいるみなさんの、また、卒業した先輩方の姿です。

- ①掃除のやり方を教える5年生がいました。「ここゴシゴシ、そうそう、うまいうまい」「ぞうきはねえ、こうやって絞るんだよ。はい、やってみて。うんうん、もっと力を入れて、そうそう、うまい」なんて。
- ②集まってきた場面。さりげなく気遣い、励ましている6年生がいました。「あれっ、何だか機嫌悪いね、どうした? ふんふん、ん〜そうかあ、大丈夫、大丈夫」と、背中を優しくトントン…、なんて。
- ③「困らせ人」と関わる場面。「困らせ人」いるでしょ? ちっとも言うことを聞かず、自分だけ楽しい人。先輩が困っているのを楽しんでいるかのような人。そんな「困らせ人」に対し、俺に任せるとばかりにぐっとだきしめ「だめなものはダメなんだ」と教え、その後は優しく関わる4年生もいました。

では、学年が下の人たちは、先輩の言うことに従っているだけ? そんなことはありません。

- ①自分から仕事を見つけて、「ここもやっておくね」なんて、さっと動く1年生がいます。
- ②「ねえねえ、一緒に机運んで」と、声をかけ、さりげなくつながりをつくっちゃう2年生がいます。
- ③多くの人が笑い転げるような楽しい話をし、その場を明るくする3年生がいます。

こんな後輩たちに、先輩も助けられているのですよ。

(中略)

今紹介したようなやりとりに、多く出会います。そんなとき私は、「ああ、こうやって、先輩から後輩へ、人と関わり合うときに大切なことが、知らず知らずのうちに伝わっていくのかもしれないなあ」と、嬉しくなります。

さらに、もしかすると、大人があれこれ言うよりも、子ども同士の言葉や行動の方が、強い影響があるのかもしれないなあ、しみじみ思います。(後略)

